

## 熟練・新人作業療法士がクライアントに用いる意欲向上を 目的とした言葉かけの相違に関する質的研究

野村健太 広江祐司 小林祐子 野村めぐみ 今井満悠子 齋藤ちひろ 會田玉美  
(Kenta NOMURA Yuji HIROE Yuko KOBAYASHI Megumi NOMURA  
Mayuko IMAI Chihiro SAITO Tamami AIDA)

### 【要約】

《目的》本研究の目的は、熟練作業療法士と新人作業療法士のクライアントの意欲向上を目的とした言葉かけの相違を明らかにすることである。

《方法》研究デザインは質的研究とし、臨床経験9年以上の熟練作業療法士10名と3年未満の新人作業療法士10名を対象に、半構造化面接を用いて調査した。分析方法は、熟練作業療法士と新人作業療法士の面接逐語録をそれぞれラベル化し、類似性に従ってコード化、カテゴリー化を行い、比較した。

《結果》熟練および新人作業療法士に共通するカテゴリーは8つ、相違するカテゴリーはそれぞれ3つずつみられた。新人作業療法士に特有のカテゴリーは【視覚にも訴える】【あえて言葉をかけない】【協働する】であった。熟練作業療法士に特有のカテゴリーは【行動と気づきを促す】【感情に言葉を乗せる】【主体性を引き出す】であった。

《考察》新人作業療法士は関係性を築くための言葉かけやクライアントの思考・行動を作業療法士の治療方針に方向付ける言葉かけを行っており、熟練作業療法士はクライアントのニーズや意欲をクライアントの状況と共に理解し、クライアントを後押しする言葉かけを行っていると考えられた。

キーワード：作業療法士 言葉かけ 意欲 質的研究

### I. はじめに

日本作業療法士協会<sup>1)</sup>によると、作業療法は人々の健康と幸福を促進するために行われ、そのための手段は、作業に焦点を当てた治療、指導、援助であるとされている。その過程において、作業療法士（以下、OTR）はクライアント（以下、CL）の主体性を尊重する必要がある。これは、作業療法が発展してきた歴史の中で、作業療法は精神障害領域だけでなく身体障害領域でも有効であることを主張したBartonが、作業療法の目的を「患者自身のエネルギーを引き起こし、主体的に

自己有能感を取り戻す過程を支援すること<sup>2)</sup>と、「主体的」という言葉を用いて説明していることから理解できる。しかし、作業療法の臨床において、時には主体的に作業療法を行うことができないCLに出会うことがあり、「CLの意欲が低い」と表現することがある。CLの意欲はADLの自立度と相関がある<sup>3)</sup>ことや、リハビリテーションを進める上での障害因子である<sup>4)</sup>ことが明らかになっている。従って、OTRは作業療法が必要にもかかわらず作業療法を拒否するCLと良好な関係性を構築したり、CLがたとえ障害を抱えても主体的に生きることを支援するために、意欲の向上を

のむらけんた：目白大学保健医療学部作業療法学科

ひろえゆうじ：IMSグループ板橋中央総合病院

こばやしゆうこ：蓮田よつば病院

のむらめぐみ：慈誠会練馬駅リハビリテーション病院

いまいまゆこ：慈誠会徳丸リハビリテーション病院

さいとうちひろ：手賀沼病院

あいだたまみ：目白大学大学院リハビリテーション学研究所

図る必要がある。例えば、発達障害領域のOTRは、子どもの行動に言葉で意味づけを行い、達成感と意欲を引出すことがインタビューによる研究で示されている<sup>5)</sup>。また、回復期リハビリテーション病棟のOTRは体操を用いた集団作業療法において、片麻痺・抑うつ・意欲低下を呈するCLへポジティブなフィードバックを行うことにより、心身機能と心理社会機能の変化に対する気づきを促し、さらに他CLの前で賞賛される経験を通して自己効力感を賦活する<sup>6)</sup>といった工夫をしている。

尾崎ら<sup>7)</sup>は『OTRがCLの気持ちを前向きにさせるために実践できる方略は、まず初めにCLの生活歴や職業歴などの個人背景を知り、現在の生活で困っていること、やれるようになりたいことなどを「傾聴の姿勢でCLの想いや意志を尊重」して、CLの価値観に寄り添うことである』と述べている。また、筆者らはMcClelland<sup>8)</sup>の動機欲求説に則って作成されたOTRによる言葉かけはCLの意欲向上に効果があることを明らかにした<sup>9)</sup>。こうしたCLの意欲を向上させるための手法の条件は、CLの背景因子を知っていること、CLの心理面の変化を察知できること、傾聴の態度、関わる際の言葉、等が必要と考えられ、作業療法の専門的なスキルであると言える。しかし鎌倉<sup>10)</sup>は、こういった作業療法の実践技術は伝承する教育環境に問題があり、書籍や先行研究の中にも反映されているとは言いがたく、現場の技術を具体的に後進に語る必要性を説いている。そのためにはまず、OTRがCLに用いる意欲向上のための技術・思考を言語化する必要がある。そこで我々は、OTRがCLに対して意欲を向上するためにどのような言葉をかけているか、という問いに着目した。

本研究の目的は、熟練OTRと新人OTRの言葉かけの相違を明らかにすることである。その結果から、意欲向上を意図した言葉かけのスキルについて考察を加えた。本研究の成果は、熟練OTRが用いる意欲向上を目的とした言葉かけを、臨床における新人教育や養成校における養成教育に活用できると考えられる。

## II. 方法

### 1. 対象

Schell<sup>11)</sup>らは、臨床経験1年未満を「できる新人」、1～3年を「有能者」、5～10年を「熟達者」としている。熟練・新人OTRに関する先行研究<sup>12-14)</sup>では3年以下または1年未満を新人、10年以上を熟練としている。これらの先行研究を参考にし、本研究は9年以上の臨床経験を有するOTRを熟練OTR、3年未満のOTRを新人OTRと操作的に定義し、それぞれ10名を対象とした。対象者の選定方法は、研究目的に照らして選んだ対象者から研究目的に関する現象を経験している対象者を紹介してもらうスノーボールサンプリング<sup>15)</sup>とした。対象者を紹介してもらう際、OTRが所属する病院・施設の主な臨床領域は限定せず、広い領域のOTRを紹介してもらうことと、熟練・新人OTRの領域が偏らないよう依頼した。

### 2. 調査方法

面接ガイド(表1)を使用し半構造化面接による1対1の個別面接を実施した。面接ガイドは面接前に対象者に提示し、対象者が面接内容を理解した上で面接を実施した。面接は臨床経験5年の筆頭筆者と4年～5年の共同研究者の計7名のOTRが行い、対象者1名につき1回行った。面接に先立って筆頭筆者および共同研究者は互いに面接の試行をし、面接内容と面接技能の信頼性を確認した。面接時間は対象者1名につき30分程度に設定した。面接日時と場所は対象者と相談して決定した。面接内容はICレコーダーにて録音し、後日逐語録を作成した。

なお、本研究における「言葉かけ」は、「OTRがCLに言葉をかける際の意図・態度・音声言語・行動」と操作的に定義した。

### 3. 分析方法

熟練OTRと新人OTRの面接逐語録をそれぞれ質的に分析した。分析手順は、まず、逐語録の言葉かけに

表1 面接ガイド

①	どのように言葉かけを使い分けていますか
②	言葉かけでCLの意欲の向上が見られた経験を教えてください
③	CLが成功体験をした時、どのような言葉をかけていますか
④	CLが失敗体験をした時、どのような言葉をかけていますか
⑤	作業療法に対して意欲が低いCLにどのような言葉をかけていますか
⑥	言葉かけをすることでCLにどのような効果を期待していますか

関する発言部分を1つの意味・事柄になるよう端的にラベルに書き出した。次に、ラベルを熟練OTR・新人OTRごとに内容の類似性に従って分類しコード化した。さらに、抽象度を上げてコードを分類し、カテゴリー化した。一連の分析の妥当性は質的研究の指導経験を多数持つ共同研究者1名を含む計7名のOTRで確認しながら進めた。

本研究は、目白大学における人及び動物を対象とする研究に係る倫理審査委員会の承認(14-017)を得て実施した。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 結果の概要

対象者の平均臨床経験年数と標準偏差は熟練OTRが $11.7 \pm 2.9$ 年、新人OTRが $1.6 \pm 0.5$ 年だった(表2)。熟練OTRの所属は、病院が5名、介護老人保健施設が2名、養成校教員が3名だった。新人OTRの所属は病院が9名、介護老人保健施設が1名であった。データ収集期間は2014年5月から2014年10月であり、熟練OTR全員の面接時間の合計は4時間53分、1名あたりの平均は $29 \pm 13$ 分、新人OTRは3時間38分、平均 $21 \pm 8$ 分だった。熟練OTRの逐語録を分析した結果、187ラベル、24コード、11カテゴリーが得られた。新人OTRは196ラベル、26コード、11カテゴリーが得られた。熟練OTRと新人OTRに共通するカテゴリーは8、相違するカテゴリーはそれぞれ3ずつであった。以降、コードは〈 〉、カテゴリーは【 】の記号で表す。

#### 2. 新人OTRと熟練OTRに共通するカテゴリー

新人OTRと熟練OTRの言葉かけに共通するカテゴリーは【関係性を築く】【CLに合わせる】【CLを知る】【よく説明する】【経験の認識をコントロールする】【うまく褒める】【他者から言葉をかけてもらうように図る】【言語表現を変える】の8カテゴリーであった。

【関係性を築く】は新人OTRも熟練OTRも2つのコードで構成され、共通するコードは〈ラポールを形成する〉であった。相違するコードは、新人OTRは〈雑談する〉、熟練OTRは〈セラピスト自身のことを話す〉だった。【CLに合わせる】は、新人OTRは2つ、熟練OTRは5つのコードで構成され、共通するコードは〈言葉をかけるタイミングを図る〉〈CLの興味・関心に合わせる〉であり、熟練OTRはさらに〈CLの体調に合わせる〉〈CLの性格に合わせる〉〈CLのしぐさを真似する〉から構成された。【CLを知る】は、新人OTRも熟練OTRも3つのコードで構成され、共通するコードは〈言葉をかけた後のリアクションを見る〉〈人となりを知る〉であり、相違するコードは、新人OTRは、〈意欲がわからない理由を聞く〉、熟練OTRは〈好き嫌いの理由を聞く〉だった。【よく説明する】は、新人OTRも熟練OTRも3つのコードで構成されており、共通するコードは〈CLの能力の説明をする〉〈訓練目的の説明をする〉であり、相違するコードは、新人OTRは、〈リハを行わないことの不利益を説明する〉、熟練OTRは、〈家族に説明する〉だった。【経験の認識をコントロールする】は、新人OTRは3つ、熟練OTRは2つのコードで構成され、共通するコードは〈成功体験を強化する〉〈失敗したという認識を避ける〉

表2 対象者の属性

熟練 OTR				新人 OTR			
対象者	性別	経験年数	所属 (領域)	対象者	性別	経験年数	所属 (領域)
A	男性	10	介護老人保健施設	K	女性	2	病院 (身体領域回復期)
B	女性	9	病院 (身体領域回復期・維持期)	L	男性	2	病院 (身体領域回復期)
C	女性	10	病院 (身体領域)	M	女性	2	介護老人保健施設
D	女性	11	病院 (認知症)	N	男性	2	病院 (身体領域急性期)
E	男性	12	病院 (認知症)	O	男性	2	病院 (身体領域急性期)
F	女性	10	病院 (身体領域回復期)	P	女性	1	病院 (身体領域急性期)
G	男性	9	介護老人保健施設	Q	女性	2	病院 (身体領域回復期)
H	男性	19	養成校 (身体・精神・地域領域)	R	女性	1	病院 (精神)
I	男性	14	養成校 (身体・地域領域)	S	女性	1	病院 (身体領域回復期・認知症)
J	男性	13	養成校 (発達領域)	T	女性	1	病院 (身体領域急性期)
	平均	11.7			平均	1.6	
	標準偏差	2.9			標準偏差	0.5	

表3 新人OTRが使用する言葉かけの 카테고리・コード・ラベル

カテゴリー	コード	代表ラベル
関係性を築く	ラポールを形成する	ラポールを形成する
	雑談する	リハ時間外にも声をかける 天気・テレビ番組・装飾品などリハに関係ないことを話す
CLに合わせる	言葉をかけるタイミングを図る	リハを拒否する CL に対して時間を置いて言葉をかける
	CLの興味・関心に合わせる	CLの関心に合わせて離床を促す CLの興味のある作業を提供する
CLを知る	リアクションを見る	挨拶したときの反応を見る CLの様子をみる
	人となりを知る	雰囲気を感じる 性格を知る
	意欲がわからない理由を聞く	CLのバックグラウンドを知る CLがなぜ拒否しているか理由を直接聞く
		どこまで出来ているかを説明する
よく説明する	CLの能力の説明をする	身体機能の変化を伝える 能力の変化を伝える
	訓練目的の説明をする	訓練の目的を伝える
	リハを行わないことの不利益を説明する	リハを行わないことで身体機能や現状が変わらないことを伝える
経験の認識をコントロールする	成功体験を強化する	小さいことでもできたら「できましたね」と言う できたことにできたことを伝える
	失敗したという認識を避ける	次に行うことを提案して失敗したことに着目させない
	とりあえず行動してみることを促す	リハを実際にやってみてからやるかどうか判断してもらう
うまく褒める	よく褒める	とにかく褒める
	褒めすぎない	褒めすぎると無理して一人で行動して失敗して意欲が下がることがある
他者から言葉をかけてもらうように図る		家族にリハをみてもらう
	他者から言葉をかけてもらうように図る	家族に意見を求める
		第三者に意見を求める
言語表現を変える	簡単な言葉を使う	単語レベルで話す
	大きさに言う	大きさに言う
	話す早さを変える	ゆっくり話す
	声質を変える	元気に声を張る 落ち着いた声のトーンで話す。
視覚にも訴える	敬語で話す	敬語で話す
	ジェスチャーを加える	訓練内容を体で表現する
	笑顔で声をかける	表情を明るくする 笑顔で声をかける
	立ち位置を工夫する	CLの意識を向けるために正面に入る
あえて言葉をかけない	視線を合わせる	CLの視線に合わせる
	あえて受け流す	CLの言動を受け流す
協働する	あえて間（時間）をとる	あえて相手にしない
	協働する	会話の中で間を取った時のCLの反応をみる 一緒に頑張っていこうという気持ちを伝える 失敗したときに一緒に理由を考える

※網掛けは熟練OTRにはないカテゴリーとコード

であり、新人OTRはさらに「とりあえず行動してみることを促す」から構成された。【うまく褒める】は新人OTRも熟練OTRも共通する2つのコード「よく褒める」「褒めすぎない」から構成された。【他者から言葉をかけてもらうように図る】は新人OTRも熟練OTRも共通する1つのコード「他者から言葉をかけてもらうように図る」から構成された。【言語表現を変える】は、新人OTRは5つ、熟練OTRは3つのコードで構成

され、共通するコードは「簡単な言葉を使う」であった。相違するコードは、新人OTRは「大きさに言う」「話す早さを変える」「声質を変える」「敬語で話す」であり、熟練OTRは「声量を変える」「抑揚を変える」から構成された。

### 3. 新人OTRと熟練OTRで相違するカテゴリー

新人OTRに特有のカテゴリーは【視覚にも訴える】

表4 熟練OTR が使用する言葉かけの 카테고리・コード・ラベル

カテゴリー	コード	代表ラベル
関係性を築く	ラポールを形成する	CLの顔だけ見に行く時間を作る ラポールを形成する
	セラピスト自身のことを話す	わざと自分をさらけ出して相手のことを聞く
CLに合わせる	言葉をかけるタイミングを図る	リハを拒否する CL に対して時間を置いて言葉をかける 言葉をかけるタイミングを図る
	CLの興味・関心に合わせる	CLの興味・関心に合わせて声をかける 精神疾患を持つ CL には特に言葉に注意する
	CLの体調に合わせる	CLの体調や気分などを考慮し言葉を変える
	CLの性格に合わせる	CLの性格に合わせて言葉を変える
	CLのしぐさを真似する	同じしぐさをわざとしてみる
CLを知る	言葉をかけた後のリアクションを見る	言葉をかけた時の仕草・態度で意欲を評価する
	人となりを知る	CL が今まで生きてきた社会的背景を元に言葉を変える
よく説明する	好き嫌いの理由を聞く	作業に関して好きな理由・嫌いな理由を聞く
	CLの能力を説明する	どこまで出来ているかを説明する 身体機能の変化を伝える 能力の変化を伝える
	訓練目的を説明する	目標をイメージさせるように説明する 訓練の目的をきちんと説明する
	家族に説明する	家族に対して丁寧に説明する
経験の認識をコントロールする	成功体験を強化する	具体的に出来たことを分かるように言葉をかける
	失敗したという認識を避ける	失敗したところではなく出来たところのみ伝える
うまく褒める	よく褒める	よく褒める
	褒めすぎない	怪しまれないように褒める量を調節する。
他者から言葉をかけてもらうように図る	他者から言葉をかけてもらうように図る	CLの成功体験を CL が見ている前で家族に伝える 家族・第三者から CL にフィードバックしてもらうように促す
	簡単な言葉を使う	簡単な言葉で伝える
言語表現を変える	声量を変える	声量を変える
	抑揚を変える	抑揚を変える
行動と気づきを促す	行動を促す	褒めてもう1度同じ行動を促す CLの気持ちを理解していることを言葉にしなが、行動を促す
	気づきを促す	失敗体験で終わらないように、気づいてもらうように声をかける 自分がどれくらいのスキルを持っているか気付かせるように声をかける
感情に言葉を乗せる	一緒に泣き笑いして言葉をかける	一緒に泣いて言葉をかける 一緒に喜んで言葉をかける
	CLの行動に対して感謝の言葉をかける	出来たことに対して感謝の意味も込めて言葉をかける
主体性を引き出す	CLに役割を与える	作業を行う立場から、作業を教える立場に変わるように促す
	良い雰囲気を作る	リハの導入がしやすい空気を作る

※網掛けは新人 OTR にはないカテゴリーとコード

【あえて言葉をかけない】【協働する】であった。【視覚にも訴える】は「ジェスチャーを加える」「笑顔で声をかける」「立ち位置を工夫する」「目線を合わせる」の4つのコードで構成された。【あえて言葉をかけない】は「あえて受け流す」「あえて間（時間）をとる」の2つのコードで構成された。【協働する】は「協働する」の1つのコードで構成された。

熟練OTRに特有のカテゴリーは、【行動と気づきを促

す】【感情に言葉を乗せる】【主体性を引き出す】であった。【行動と気づきを促す】は、「行動を促す」「気づきを促す」の2つのコードで構成された。【感情に言葉を乗せる】は、「一緒に泣き笑いして言葉をかける」「CLの行動に対して感謝の言葉をかける」の2つのコードで構成された。【主体性を引き出す】は、「CLに役割を与える」「良い雰囲気を作る」の2つのコードで構成された。

## IV. 考 察

### 1. 新人OTRと熟練OTRの言葉かけの特徴

本研究の熟練OTRと新人OTRは介護老人保健施設と養成校に所属している対象者が少数含まれているものの、領域は概ね身体領域・認知症関連領域であることから、本研究は身体領域・認知症関連領域のOTRの意見が強く反映されていると考えられる。

言葉かけに関する知見として、臨床心理学<sup>16)</sup>においては、セラピストが用いる肯定的発話は面接に必要な条件であり、CLをエンパワメントしたり治療効果が高い<sup>17)</sup>とされている。久間ら<sup>18)</sup>はこの肯定的発話を類型化しており、セラピストとCLの関係を築くなどの治療的基盤を作る「土台作り」、CLの思考や行動を方向付ける「水路づけ」、CLの治療的变化を促進する「後押し」、CLをセラピストの明確な治療的方向性や方針に近づくように導く「導き」の4つに分かれることを明らかにした(表5)。久間ら<sup>18)</sup>はさらにCLの治療的变化を促進しようというセラピストの意図の強弱と、セラピストが持つ治療的方向性の強弱の2軸によって4類型にまとめている(図1)。本研究で得られたカテゴリーをその4類型に当てはめると、新人OTRと熟練OTRに共通するカテゴリーである【関係を築く】【CLに合わせる】【CLを知る】は「土台作り」に、【よく説明する】と【経験の認識をコントロールする】は「水路づけ」に、【うまく褒める】は「後押し」に、【他者から言葉をかけてもらうように図る】は「導き」に当てはまり、【言語表現を変える】はいずれにも当てはまらないと考えられる。新人OTRに特有のカテゴリーである【視覚にも訴える】は「土台作り」、【あえて言葉をかけない】は「水路づけ」に、【協働する】は「後押し」に当てはまると考えられる。熟練OTRの【行動と気づきを促す】【感情に言葉を乗せる】【主体性を引き出す】はいずれも「後押し」に当てはまると考えられる。つまり、新人OTRは変化の促進の弱い「土台作り」と「水路づけ」の言葉かけを重点的に行っており、熟練OTRは「後押し」の言葉かけを重点的に行っていることが特徴的であると考えられる。Schell<sup>11)</sup>らによると、OTRの熟達度を浅い順に「初心者」「できる新人」「有能者」「堪能者」「熟達者」と段階づけており、臨床経験1～3年の「有能者」は状況的推論を使用して介入を修正するが、柔軟性に欠けるという特徴があるとしている。一方、臨床経験5

～10年の「熟達者」はCLの視点を理解して介入を決定出来たり、素早い直感で流れるように行動することができる<sup>11)</sup>。つまり、「土台作り」と「水路づけ」の言葉かけを重点的に行っている新人OTRは「有能者」のように意図的・効率的に状況に合わせた言葉かけを行っているが、意欲向上を意図した言葉かけを柔軟に行うことはできていないと解釈できる。一方、「後押し」の言葉かけを重点的に行っている熟練OTRは「熟達者」のようにCLのニーズや意欲を状況と共に理解し、意欲向上を意図した言葉かけを直観的に行っていると考えられる。

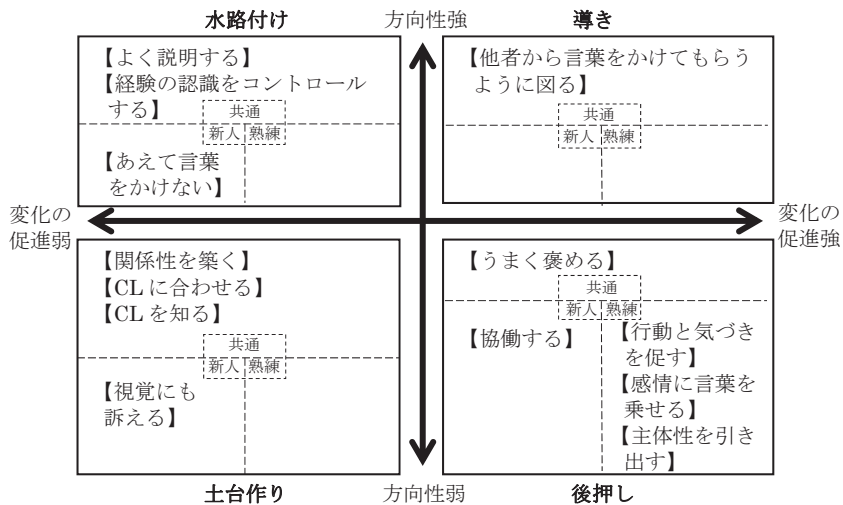
### 2. 言葉かけのスキルアップと今後の課題

日本作業療法士協会<sup>19)</sup>は、OTRに必要な臨床における専門能力を態度・習慣、技術・技能、知識に分けて述べており、OTRは学生レベルから新人、熟練者へと成長することが求められている。野中ら<sup>20)</sup>は知識を「正当化された真なる信念」と定義し、知識とは特定の状況において個人が経験を通して身体で獲得した他者に言語化できない知識である「暗黙知」と、言語化・文書化でき、特定の状況に依存しない知識である「形式知」があり、知識は暗黙知と形式知の相互変換によって創造されるとし、その形成プロセスを示した。第1プロセスは経験を共有し五感を使って他者のもつ暗黙知を獲得する、つまり暗黙知から暗黙知を創る「共同化 (socialization)」である<sup>20)</sup>。従って新人OTRが熟練OTRの言葉かけを学ぶためには、新人OTRはまず熟練OTRの【行動と気づきを促す】【感情に言葉を乗せる】【主体性を引き出す】ような言葉かけに着目しながら臨床を見学することが必要であると考えられる。第2プロセスは対話を通して個人の暗黙知を言語化し形式知にしていく、つまり暗黙知を形式知に変換する「表出化 (externalization)」である<sup>20)</sup>。本研究は新人OTRと熟練OTRが臨床において使用するCLの意欲向上を目的とした言葉かけを暗黙知と捉え、形式知に変換したことから、この第2プロセスに当たると考えられる。なお、第3プロセスはマニュアルなどの新しい知識体系を創り出す、つまり形式知から新たな形式知を創り出す「連結化 (combination)」、第4プロセスは組織的に創られた形式知を研修や学習プログラムを通して体得する、つまり形式知を暗黙知に変換する「内面化 (internalization)」<sup>20)</sup>である。

表5 肯定的な発話の種類と本研究のカテゴリーとの対応

久間ら <sup>18)</sup> のセラピストの肯定的な発話		新人 OTR	共通	熟練 OTR
類型	定義			
土台作り	CLが感じるまま、CLの行動そのままを尊重して肯定する。セラピストがCLの治療的变化の方向性を模索している段階で、セラピストがCLを理解したり、セラピストとCLの関係を築いたりといった治療的基盤を作る。	【視覚にも訴える】	【関係性を築く】 【CLに合わせる】 【CLを知る】	
水路づけ	セラピストの治療的方向性や方針に近づくようにCLの思考や行動を方向付ける。	【あえて言葉をかけない】	【よく説明する】 【経験の認識をコントロールする】	
後押し	セラピストがCLに生じた治療的变化や成長を捉え、その変化を褒めたり成長を認めたりすることでCLの治療的变化を促進する。	【協働する】	【うまく褒める】	【行動と気づきを促す】 【感情に言葉を乗せる】 【主体性を引き出す】
導き	セラピストがCLに沿った治療的方向性や方針を明確に持ち、CLをセラピストの治療的方向性や方針に近づくように導く。		【他者から言葉をかけてもらうように図る】	
	上記のいずれにも該当なし		【言語表現を変える】	

18) 久間寛子, 藤岡勲, 隅谷理子, 福島哲夫, 岩壁茂: セラピストによる肯定的発話の類型化. 臨床心理学16, 90-98 (2016)



18) 久間寛子, 藤岡勲, 隅谷理子, 福島哲夫, 岩壁茂: セラピストによる肯定的発話の類型化. 臨床心理学16, 90-98 (2016)

図1 肯定的な発話の種類と本研究のカテゴリーとの対応

3. 研究の限界

1点目は、筆頭筆者と共同研究者の計7名は臨床経験4年～5年であり、本研究で定義した熟練OTRには当たらないため、面接および分析において意欲向上を目的とした言葉かけの潜在的な要因を引き出せていない可能性がある。2点目は、本研究の対象に精神領域や発達領域に所属するOTRが少なく、精神・発達その他

の領域のOTRが使用する意欲向上を目的とした言葉かけについては言及されていない。

V. 結論

本研究は、OTRがCLの意欲向上のために使用する言葉かけの臨床経験による相違を明らかにすることを

目的に、熟練OTR10名と新人OTR10名を対象にインタビューを行い、それぞれを比較検討した。その結果、新人OTRに特有のカテゴリーは【視覚にも訴える】【あえて言葉をかけない】【協働する】であった。熟練OTRに特有のカテゴリーは【行動と気づきを促す】【感情に言葉を乗せる】【主体性を引き出す】であった。新人OTRは変化促進の弱い「土台作り」と「水路づけ」の言葉かけを重点的に行っており、熟練OTRはCLのニーズや意欲を状況と共に理解し、CLを「後押し」する言葉かけを重点的に行っていることが特徴的であると考えられた。

\*本研究は、目白大学作業療法研究会の活動の一環として実施した。

#### 【文献】

- 1) 一般社団法人日本作業療法士協会 作業療法の定義。(オンライン) <<http://www.jaot.or.jp/about/definition.html>> (参照日: 2019年5月30日)
- 2) 二木淑子, 能登真一: 標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第3版. 20-23, 医学書院 (2016)
- 3) Rapolienė, J., Endzelytė, E., Jasevičienė, I., Savickas, R.: Stroke Patients Motivation Influence on the Effectiveness of Occupational Therapy. Rehabil Res Pract, 1-7 (2018)
- 4) 金谷潔史, 勝沼英宇, 田幡雅裕, 秋庭保夫, 馬原孝彦, 高崎優: 脳血管障害患者のリハビリテーション訓練における効果阻害因子の検討 - 特に高齢者と非高齢者との比較において -. 日本老年医学会雑誌 34, 639-645 (1997)
- 5) 大松慶子, 石井良和: 幼児の意味のある作業とは - 発達障害領域の作業療法士へのインタビューから. 作業療法 36, 183-193 (2017)
- 6) 日向寺妙子, 村木敏明, 津中恵, 白井沙緒里: 回復期リハビリテーション病棟における集団作業療法の心理社会機能への影響に関する検討 - トイレ介助を必要とする患者に焦点化して -. 作業療法 30, 295-304 (2011)
- 7) 尾崎勝彦, 宮前珠子, 鈴木達也, 山田美代子: 「作業療法に拒否的な態度を示すCLが前向きになるきっかけ」に関する探索的研究. 作業療法 34, 414-425 (2015)
- 8) David C.M.: モチベーション - 「達成・パワー・親和・回避」動機の理論と実際. 生産性出版 (2005)
- 9) 野村健太, 広江祐司, 白石めぐみ, 今井満悠子, 小林祐子, 會田玉美: 作業療法士による意欲向上を目的とした言葉かけの効果. 作業療法ジャーナル 52, 575-581 (2018)
- 10) 鎌倉矩子: プロフェッショナルの成長. 作業療法 25, 401-405 (2006)
- 11) Schell, B.A.B., Gillen, G., Scaffa, M.E., Cohn, E.S.: Willard and Spackman's Occupational Therapy 12th ed. 394-397, Lippincott Williams & Wilkins (2003).
- 12) 鈴木憲雄, 山田孝: 作業療法士が初回評価時に着目する対象者の情報に関する研究 - 新人とベテランの比較研究. 作業行動研究 15, 1-9 (2011)
- 13) 京極真, 山田孝: 非構成的評価法の確かさに影響する条件とは何か. 作業療法 25, 200-210 (2006)
- 14) 白井はる奈, 白井壯一, 宮口英樹: 重度認知症高齢者に対する熟練作業療法士の介入ストラテジーに関する探索的研究. 作業療法 30, 52-61 (2011)
- 15) 友利幸之介, 京極真, 竹林崇: 作業で創るエビデンス. 234-235, 医学書院 (2019)
- 16) 町沢静夫: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学. 3-9, 医学書院 (2001)
- 17) Najavits, L.M., Strupp, H.H.: Differences in the effectiveness of psychodynamic therapists: A process outcome study. Psychotherapy 3, 114-123 (1994)
- 18) 久間寛子, 藤岡勲, 隅谷理子, 福島哲夫, 岩壁茂: セラピストによる肯定的発話の類型化. 臨床心理学 16, 90-98 (2016)
- 19) 一般社団法人日本作業療法士協会: 作業療法臨床実習指針 作業療法臨床実習の手引き. 22-23 (2018)
- 20) 野中郁次郎, 紺野登: 知識創造の方法論. 22-64, 東洋経済新報社 (2003)

(2019年10月4日受付, 2019年11月28日受理)



## A difference of verbal supports for clients' motivation between expert occupational therapists and beginning ones: a qualitative study

Kenta NOMURA<sup>1)</sup> Yuji HIROE<sup>2)</sup> Yuko KOBAYASHI<sup>3)</sup> Megumi NOMURA<sup>4)</sup>  
Mayuko IMAI<sup>5)</sup> Chihiro SAITO<sup>6)</sup> Tamami AIDA<sup>1,7)</sup>

### **【Abstract】**

**Objective:** The purpose of this study was to clarify the difference of verbal supports for clients' motivation between expert occupational therapists and beginning ones.

**Methods:** This study has a qualitative design using semi-structured interviews with 10 expert occupational therapists with 9 years of clinical experience and 10 beginning occupational therapists with 3 years of clinical experience or less. The analysis method was labeled verbatim records of expert occupational therapists and beginning ones. After that, the data obtained were coded and categorized according to similarities.

**Results:** There were 8 common categories and 3 different categories for both occupational therapists. The categories specific to new occupational therapists were **【appeals visually】**, **【do not speak words】**, and **【collaborate】**. The categories specific to skilled occupational therapists were **【prompt action and awareness】**, **【put words on emotions】**, and **【draw out subjectivity】**.

**Conclusions:** New occupational therapists use words to build relationships and words that direct the client's thoughts and actions to the occupational therapist's treatment policy. Skilled occupational therapists understand the client's needs along with the client's situation and use words that encourage the client.

**Keywords:** occupational therapist, verbal support, motivation, qualitative study

1) Department of Occupational Therapy, Faculty of Health Science, Mejiro University.

2) IMS Itabashi Chuo Medical Center

3) Medical Corporation Kokorono Kizuna HASUDA YOTUBA Hospital

4) Jiseikai Nerima Station Rehabilitation Hospital

5) Jiseikai Tokumaru Rehabilitation Hospital

6) Teganuma Hospital

7) Graduate School of Rehabilitation, Mejiro University

